

岸辺いっぱいのゆりかもめ(雪の降る琵琶湖の辺り・近江今津で23.1.28)と 琵琶湖雪景色(23.1.27)



写真は、連れ合いの琵琶湖たっぷり一人旅  
琵琶湖でも、こんな朝陽も見られたようです。



文庫あれこれ◆トルコ・シリアの地震。巻頭からまた悲惨なお話です。何とかこれ以上の犠牲者が出ずと願っていたら、膨大な人数になってしまいました。被災した人々が少しでも安全な場所と食事を持つことができますよう。◆連れ合いが1月末に久しぶりに一人旅。雪には往生したようですが、写真を撮ってきてくれたので、今回の表紙は琵琶湖です。◆2月初めのちょい旅は高知で、その写真は本の紹介のところに載せました。◆2月文庫の頃は、菜の花が咲いて河津桜が見頃でしょうか、文庫の庭の梅も咲いてウグイスが? 春が待ち遠しいですね、と書いたのですが、寒風未だです。◆文庫に行く前日、体調を崩し、今月は文庫の開館日(18日朝)文庫に行くことになってしまいました。全く年はとりたくありません。何にせよ、ご迷惑かけないようにしますので、ご安心を。こんな時の素晴らしいスタッフです。◆伊豆新聞に会員でもあるHさんが記事を書いてくれた沙羅の樹&西村の記事が載りました。新刊(芥川、直木賞作品など)も少し入れました。◆今年は、年初めに会費をいただいています。まだの方はご用意ください。(西村)

## 2月の俳句

如月や 身を切る風に 身を切らせ  
鈴木真砂女  
佇める 人にひろごる 野焼かな  
皆吉 爽雨

(今年の大室山の山焼きは12日です)

梅白し まことに白く 新しく  
星野 立子

(友人から蠟梅の便りが届いたと思ったら、今日は別の人から紅梅の写真が届きました、1月31日)

鶯の 日に光りつゝ 枝うつり

原石 鼎

(文庫の庭にも?)

冬帝の 早暁の富士 威をなせり

杉村 史朗

(遠距離会員の杉村さん、二宮から見た富士ですね)

## 本年も3密を避け予約制で開館します

2023年2月18日(土)、19日(日)

→3月25日(土)、26日(日)4週に変更

4月15日(土)、16日(日)

5月20日(土)、21日(日)

## ★21日、若葉のころのおはなし会★

小さい人向けAM、大きい人向けPM

6月17日(土)、18日(日)

開館時間：土曜日 13:00~17:00

日曜日 10:00~15:00

## 子どものための読み聞かせ・おはなし会

日曜日 10:30~11:00

## おはなし沙羅・おはなし勉強会

土曜日 10:30~12:30

〒413-0235 伊東市大室高原 7-122

☎0557-51-3737 (090-6039-3782)

## 沙羅の樹分館ゆるかの里子ども文庫

〒413-0232 伊東市八幡野 924-1

☎0557-54-1910

開室日：水曜日 13:00~15:00

：日曜日 10:00~15:00

★昨年亡くなった《渡辺京二》さんの文庫にある著書を下記します。一昨年亡くなった文庫会員の森林浴さんが好んで読まれた著者でした。この機会に未読の方、読んでみてください。

- ・逝きし世の面影 (平凡社)
- ・細部にやどる夢—私と西洋文学 (石風社)
- ・もうひとつのこの世—石牟礼道子の宇宙 (弦書房)
- ・予言の哀しみ—石牟礼道子の宇宙II (弦書房)
- ・近代の呪い (平凡新書)
- ・幻影の明治—名もなき人びとの肖像 (平凡社)
- ・父母(ちちはは)の記—してき昭和の面影 (平凡社)
- ・原発とジャングル (晶文社)
- ・新書版 黒船前夜 (洋泉社)
- ・新編 荒野に立つ虹 (青龍出版)
- ・夢ひらく彼方へ—ファンタジーの周辺 上・下 (亜紀書房)
- ・幻のえにし—渡辺京二発言集 (弦書房) などなど。

23.2.12の朝日にも渡辺さんの特集が載っていましたね。

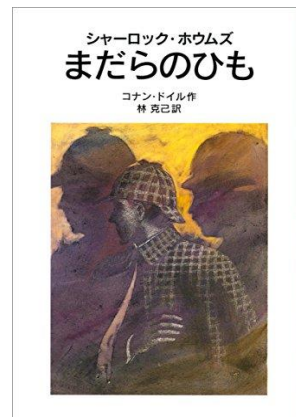
シャーロック・ホームズの短編の中でも有名な「まだらのひも」は、読んだことのある方も多いと思います(『シャーロック・ホームズの冒険』所収)。原題は The Adventure of the Speckled Band です。speckled は「しみや斑点がついた」という意味ですが、band にはいろいろな意味があります。ヘアバンドなど、何かをくくるひも状のものを指す場合もあり、またロックバンドのように人の集まりを意味する場合もあります。

speckled band はこの事件で殺されたジュリア・ストーナーのダイイング・メッセージです。ジュリアは、妹のヘレンと義父と共に広い屋敷に住んでいましたが、その領地内にロマ(ジプシー)の一団が野営をしていました。この「一団」は band なのです。つまり band にいろいろな意味があるというところに、読者に推理をさせる楽しみが含まれているのです。それなのに、日本語訳ではこの小説のタイトルを「まだらの《ひも》」と訳してしまったため、読む前からややネタバレになっているというわけです。

じゃあ、なんというタイトルにしたらよかったのか…という議論はシャーロック・ホームズの愛好家の間で長年交わされてはきましたが、一度定着してしまったものを変えることは難しく、いまだに新訳が出てこのタイトルが変わることなく続いている次第です。

ところでベルギーのコミック「タンタン」シリーズ(エルジェ著)の『カスタフィオーレ夫人の宝石』には、この物語から拝借したと思われる「ジプシー」が出てきます。やはり、宝石泥棒の疑いをかけられるのですが、結末は「まだらのひも」と同様に、人間ではない生き物の仕業でした。カスタフィオーレ夫人はオペラ歌手だったので、ある有名なオペラの題名に結び付けたオチとなっています。この結末はどちらかというところとエドガー・アラン・ポーの『モルグ街の殺人』を想起させます。

一方「まだらのひも」の方は、band を操って双子の娘たちを殺害しようとした人間によるれっきとした犯罪で、ホームズの推理により見事に解決されます。



「まだらのひも」の一場面。ホームズが鞭で叩こうとしている相手は何だったのでしょうか…

## 徒然なるままに・・・(さ・ら)

★節分の前後、高知に行きました。レンタカーで、室戸岬へ行き、それから四万十川へ。四万十川は私の希望でしたが、今まで車で眺めた日本の大きな川と比べて格別印象に残るものではなく、確かにダムがないから？私の眺めた流域は水が澄んでいました。面白かったのは、日曜だったからか、広範囲にわたって川沿いの田の畦や道の枯れ草を焼いていて、火が燃え移ってしまい、消防車や救急車がやってきたところもありました。

★高知の旅での特筆は、(195-2 に写真あり)室戸岬から高知の海岸線近く、津波避難センタービルがありました。南海トラフなどにより津波から命を守るための緊急避難場所のうち、自然地形の高台に避難するのが困難な場合、一時的に避難する場所ようですが、それだけでなく、普段観光目的にも使うことも検討されているとか。たくさんあったので印象に残りました。

高知の名物・さわち(皿鉢)料理は、高知ならではの海の幸、川の幸、山の幸が、大きなお皿と一緒に盛られています。料理を作る女の人と一緒に食べられるようにと考えられたとも聞きました。

はりまや橋は、ペギー葉山が歌って有名になったとか。本当に小さな可愛い橋です。

四万十川の沈下橋は、増水時に川に沈んでしまう欄干のない橋で、10個くらいかけられています。写真は佐田沈下橋(橋桁が色のついてるのはここだけ)。普通の橋より低く、橋が沈んでも欄干などの邪魔ものがないので、流れを止めることがないようです。それぞれの沈下橋にそれぞれの四季が美しいとか。

## 23. 2月に入る子どもの本

### 絵本

『リッランとねこ』（イーヴァル・アロセニウス 作 絵 ひしきあきらこ訳 徳間書店 2022） ID13859

『あなたがおなかのなかにいたとき』（せきやゆうこ文 嶽まいこ絵 アリス館 2022） ID13866

『橋の上で』（湯本香樹実文 酒井駒子絵 河出書房新社 2022） ID13860 \*これはちょっと大きい人向き?でも誰でもこんな時があるのかも。

『クリシュナのつるぎ~インドのむかしばなし』（秋野癸巨矢文 秋野不矩絵 BL出版 2022） ID13861

### 読みもの

『ウィリアムの子ねこ』（マージョリー・フラッグ 作 絵 まさきるりこ訳 徳間書店 2023） ID13867 \*一人で読めるようになった低学年に。

『ジャングルジム』（岩瀬成子作 ゴブリン書房 2022） ID13862

『エツコさん』（昼田弥子作 アリス館 2022） ID13865

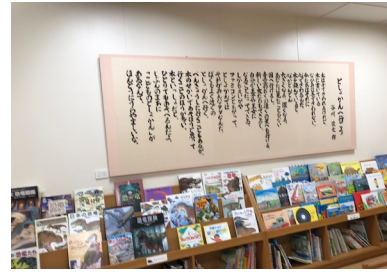
『ロンドン・アイの謎』（シヴォーン・ダウド 作 越前敏弥訳 東京創元社 2022） ID13863

### 参考図書（寄贈）

『絵本のなかへ帰る』（高村志保著 夏葉社 2022） ID13864

文庫だより 195-2

### 四国高知の高知こどもの図書館へ行きました。



### 高知の路面電車 電車の側面は宣伝でいっぱい



この車両は、四国銀行だけの宣伝カー

♥高知こどもの図書館は、認定 NPO 法人で、設置場所は、県立公文書館の建物の一部を県から貸してもらっていますが、本を買ったり、運営したりは、会員さんからの会費や寄付で賄われています。専門の児童図書館員さんが、読みたい本を探す手助けもしてくれます。沙羅の樹文庫にないような本もたくさんありました。

♥今度、伊東市も市立図書館が新しくなりますね。みんなも出かけて行って、たくさん本に出会って欲しいです。そして、読みたい本をリクエストして、みんなで図書館を育ててください♥

### 今年の干支（えと）はう・さ・ぎ

今年うさぎ年の人は6年生に!! (3月までに生まれた人は中学生!!)

うさぎが出てくる文庫にある絵本の何冊かを別置紹介します。読んでみてください (絵本の配架は出版社順)。

#### ★日本の絵本

『うさぎマンション』 くもん出版 ↓ グランママ社  
『ちいさなうさぎはんしろう はんしろうがないた』  
『うさぎのくれたバレエシューズ』 小峰書店  
『海うさぎのきた日』 小峰書店  
『こうさぎクーとおにんぎょう』 鈴木出版  
『いたずらうさぎチュローチュ』 童心社  
『いなばのしろうさぎ 日本の神話4』 トモ企画  
『こうさぎと4本のマフラー』 のら書房  
『うさぎとハリネズミ きょうもいいひ』 ひだまり舎  
『しろうさぎとりんごの木』 文溪堂  
『うさぎぐみとこぐまぐみ』 ポプラ社  
『子うさぎましろのお話』 ポプラ社  
『イナバのしろうさぎ』 かみありづき (紙芝居)

#### ★外国の絵本

『いたずらうさぎデイビー あかちゃんすきだもん』  
『いたずらうさぎデイビー とってももだちなんだもん』  
『いたずらうさぎ わざとじゃないもん』 講談社、以上3冊  
『クリスマスのうさぎぼうや』 小学館  
『うさぎのさいばん』 少年写真新聞社  
『200ぴきのうさぎ』 新世研  
『岩をたたくウサギーサヴァンナのむかしがたり』 新日本出版  
『新版 ゆきうさぎのねがいごと』 世界文化社  
『うさぎのおくりもの』 汐文社  
『かしこいウサギとはずかしがりやの大きな声の鳥』 徳間書店  
『子うさぎジャックとひとりぼっちのかかし』 徳間書店  
『ひとりぼっちのかいぶつといしのうさぎ』 徳間書店  
『そのうさぎはエミリー・ブラウンのっ!』 評論社  
『うさぎのいえーロシア民話』 福音館書店  
『きつねとうさぎーロシアの昔話』 福音館書店  
『クリスマスのうさぎさん』 福音館書店  
『しろいうさぎとくろいうさぎ』 福音館書店  
『野うさぎのフルー』 福音館書店  
『うさぎのくに』 ペンギン社  
『つきのよのおやくそくちいさなうさぎ』 ポプラ社  
『うさぎのおうち』 ほるぷ出版  
『こうさぎたちのクリスマス』 佑学社  
『はがぬけたときこうさぎは』 リブリオ出版

●次回は読み物を紹介しますね。

## 23. 2月に入る大人の本

### フィクション

『ワンダーランド急行』（荻原浩著 日本経済新聞出版 2022）ID18934

『月の立つ林で』（青山美智子著 ポプラ社 2022）ID18935

『この世の喜びよ』（井戸川射子著 講談社 2022）ID18936. \*芥川賞

『地図と拳』（小川哲著 集英社 2022）ID18937 \*直木賞。部厚い（本文 625P もある）

『馬上の星』（宮城谷昌光著 中央公論新社 2022）ID18938

『祝宴』（温又柔著 新潮社 2022）ID18939

『荒地の家族』（佐藤厚志著 新潮社 2023）ID18945 \*芥川賞

★今回直木賞もう 1 冊『しろがねの葉』（千早茜著 新潮社 2022）は、すでに文庫にあります。

### エッセイ ほか

『旅行鞆のガラクタ』（伊集院静著 小学館 2022）ID18940

『証し～日本のキリスト者』（最相葉月著 角川書店 2022）ID18941

『人生がときめく片づけの魔法 改訂版』（近道麻里恵著 河出書房新社 2019）ID18942

『オーウェルの薔薇』（レベッカ・ソルニット著 川端康雄/ハーン小路恭子訳 岩波書店 2022）ID18943

### 文庫

『星新一～1001 話を作った人 下』（最相葉月著 新潮文庫 2022）ID18944

2 月節分の前後、室戸岬・四万十川にちょい旅しました。



四万十川と沈下橋

高知の海岸沿い  
そこここにあった  
津波避難センター



はりまや橋

土佐名物  
さわち（皿鉢）料理



## 昨年（2022）読んで心に残った本たち

西村 裕子

昨年は、伊豆を留守にすることの多い忙しい年で、読書の雑記ノートを広げて本のタイトルを見ても、ほとんど忘却の彼方で情けないかぎり。

そんな中で、印象深かったのは『オリーブ・キタリッジの生活』（エリザベス・ストラウト著、小川高義訳、早川書房）、2009 年度ピューリッツァー賞受賞の連作短編集で、ストラウトの初期の著作です。アメリカ北東部の架空の田舎町が舞台で、タイトルにある元数学教師のオリーブ・キタリッジは、頑固で勝手に時々不安定という普通の中年のオバサンです。住民の個人的な物語がつづられる各章の中に、彼女は主人公や脇役で登場し、他の住民同士にも絶妙な接点があります。オリーブ 40～70 代の年月の経過の中で、この田舎町に住む人たちにおこる、ささやかな出来事の、ありふれた日常の、なんと残酷で尊いことか。時はすべての人々に平等に流れ、人の命にも永遠はありません。焦燥感や喪失感からは逃れようがないものの、それぞれの人生は何よりも素晴らしいと思う次第です。続編『オリーブ・キタリッジふたたび』では、オリーブも 80 代、ほぼ現代ですので妙に生々しくて、閉口したと正直にお伝えしておきます。文庫には他にも数冊ストラウトの評判の著作があり、読み応えがありますので、ぜひ。

コロナ禍 3 回目の冬も明け、今年は新たな局面をむかえるようです。

町医者四代の物語である『花散る里の病棟』（帯木蓬生著、新潮社）で圧倒的な印象を残すのは戦中戦後の章です。が、コロナのパンデミックに奮闘する現代医療の最終章があることで、私にはむしろ近現代の日本の軌跡が強く意識できました。70 歳まで町医者だった義母はコロナ禍前に亡くなりましたが、生前のように「今月文庫で借りてきた本ですが、いかがですか」と届けたい一冊です。